

授業科目	運動学		担当教員	吉田 香織	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23回	時間数 45時間
授業目的	理学療法士、作業療法士は対象者の運動、動作、活動を観察・分析して治療に繋げる。この科目では、そのために必要な人間の正常な運動のメカニズムを理解することが目的である。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に関する原理・原則など、基本的事項を理解し説明できる。 ・人間の運動の基礎となる、身体の構造と機能を理解し説明できる。 ・各関節運動の特徴や、運動に作用する筋について説明できる。 				
テキスト・参考図書等	基礎運動学 第7版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項	人間の運動がなぜ、どのように起こるかを学び、理学療法・作業療法の土台となる学問である。履修する範囲が広域ですし力学や解剖学の基礎的知識が不可欠なので、予習、復習を十分に行なうこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	運動学の基礎	オリエンテーション、運動学の概念について学習する		
	2	運動学の基礎	オリエンテーション、運動学の概念について学習する		
	3	機能解剖：足	足関節の構造と機能について学習する		
	4	機能解剖：足	足関節の構造と機能について学習する		
	5	機能解剖：膝関節	膝関節の構造と機能について学習する		
	6	機能解剖：膝関節	膝関節の構造と機能について学習する		
	7	機能解剖：膝関節	膝関節の構造と機能について学習する		
	8	機能解剖：膝関節	膝関節の構造と機能について学習する		
	9	機能解剖：股関節	股関節の構造と機能について学習する		
	10	機能解剖：股関節	股関節の構造と機能について学習する		
	11	機能解剖：股関節	股関節の構造と機能について学習する		
	12	機能解剖：股関節	股関節の構造と機能について学習する		
	13	機能解剖：肩関節	肩関節の構造と機能について学習する		
	14	機能解剖：肩関節	肩関節の構造と機能について学習する		
	15	機能解剖：肩関節	肩関節の構造と機能について学習する		
	16	機能解剖：肩関節	肩関節の構造と機能について学習する		
	17	機能解剖：肘関節	肘関節の構造と機能について学習する		
	18	機能解剖：肘関節	肘関節の構造と機能について学習する		
	19	機能解剖：手	手関節の構造と機能について学習する		
	20	機能解剖：手	手関節の構造と機能について学習する		
	21	機能解剖：体幹	体幹の構造と機能について学習する		
	22	機能解剖：体幹	体幹の構造と機能について学習する		
23	姿勢・歩行	姿勢と正常歩行のメカニズムについて学習する			

授業科目	解剖学		担当教員	飯島 治之	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23回	時間数 45時間
授業目的	・生物としての代謝と動物としての運動のための人体の構造を系統的に学び理解することを目的とする。				
到達目標	・理学療法士・作業療法士にとって重要である運動器系としての骨・関節・靭帯・筋およびその詳細について学習し、基礎的知識を身につける。 ・基本的な解剖学の名称と各器官の関連性、および人体に於ける3次元的な位置関係について理解する。				
テキスト・参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで 筋学ハンドブック				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	中間試験、前期試験を実施し、合計点が120点未満の者には再試験を実施する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	・学習する範囲・量が膨大なので、講義を集中して受け予習・復習を怠らないこと(怠ると他の科目にも影響します)。私語は慎むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	解剖学概論	解剖学用語、身体各部の名称		
	2	骨学概論	骨の種類、組成、基本構造		
	3	頭蓋骨1・2	脳頭蓋、顔面骨		
	4	頭蓋骨1・2	脳頭蓋、顔面骨		
	5	脊柱	椎骨		
	6	胸郭	胸骨、肋骨		
	7	上肢1・2	上肢帯、上腕骨、前腕、手の骨		
	8	上肢1・2	上肢帯、上腕骨、前腕、手の骨		
	9	下肢1・2	下肢帯、大腿骨、下腿、足の骨		
	10	下肢1・2	下肢帯、大腿骨、下腿、足の骨		
	11	上肢の関節	肩、肘、手の関節		
	12	下肢の関節、(中間試験)	股、膝、足の関節		
	13	筋学概論	筋の種類		
	14	頭部の筋	表情筋、咀嚼筋		
	15	頸部の筋	浅頸筋、舌骨筋群		
	16	胸部の筋	浅胸筋、呼吸筋		
	17	腹部の筋	腹筋、横隔膜		
	18	背部の筋	浅背筋、固有背筋		
	19	上肢の筋1・2	上肢帯筋、上腕筋、前腕筋、手の筋		
	20	上肢の筋1・2	上肢帯筋、上腕筋、前腕筋、手の筋		
	21	下肢の筋1~3、(前期試験)	下肢帯筋、大腿筋、下腿筋、足の筋		
	22	下肢の筋1~3、(前期試験)	下肢帯筋、大腿筋、下腿筋、足の筋		
23	下肢の筋1~3、(前期試験)	下肢帯筋、大腿筋、下腿筋、足の筋			

授業科目	解剖学		担当教員	二宮 孝文	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態	講義		授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	・生物としての代謝と動物としての運動のための人体の構造を系統的に学び理解することを目的とする。				
到達目標	・具体的には感覚器、消化器、呼吸器、泌尿器、循環器、神経系、内分泌器について学習し、基本的な解剖学の名称と器官の関連性について理解する。				
テキスト・参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	<ul style="list-style-type: none"> ・前期試験・後期試験のどちらにも合格すること。 ・試験は100点満点中60点以上を合格とする。 ・本試験不合格の物に対し、再試験を実施し60点以上を合格とする。 		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	学習する範囲が広範なので、何度も反復して理解を深めること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	循環器	心臓の位置と構造		
	2	循環器	心臓の内部構造		
	3	循環器	体循環と肺循環		
	4	呼吸器	呼吸経路の全体像		
	5	呼吸器	気道と肺の構造		
	6	内臓学総論、消化器	腹膜、口腔		
	7	消化器	食道、胃、小腸		
	8	消化器	大腸、膵臓、肝臓		
	9	泌尿器	泌尿器		
	10	泌尿器	男性生殖器		
	11	泌尿器	女性生殖器		
	12	末梢神経	末梢神経系		
	13	末梢神経	末梢神経系		
	14	感覚器	感覚器（視覚器、平衡聴覚器）		
	15	感覚器	感覚器（視覚器、平衡聴覚器）		
	16	組織（1）	人体の組織と発生		
	17	組織（2）	骨・筋		
	18	組織（3）	神経組織		
	19	中枢神経（1）	神経の変性と再生		
	20	中枢神経（2）	脳の発生		
	21	中枢神経（3）	脊髄		
	22	中枢神経（4）	脊髄		
23	中枢神経（5）	脳神経			

	24	中枢神経 (6)	脳幹
	25	中枢神経 (7)	脳幹
	26	中枢神経 (8)	小脳
	27	中枢神経 (9)	間脳
	28	中枢神経 (10)	大脳皮質
	29	中枢神経 (11)	大脳髓質・基底核
	30	中枢神経 (12)	神経路

授業科目	基礎作業学	担当教員	和田 英峰		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	作業療法の基礎となる作業と人間の関係について理解を深める				
到達目標	人間にとって作業はどんな意味があるか説明できる 作業と作業療法の関係を説明できる 作業の治療的応用について説明できる				
テキスト・参考図書等	山根寛：ひとと作業・作業活動 新版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90	定期試験は前期・後期の2回に分けて行う。 前期定期試験は80点満点+提出物20点、後期定期試験は100点満点を合計し、各期100点満点の合計200点の平均で評価する。 提出物点は提出物の提出状況及び内容により算定する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	10			
その他	0				
履修上の留意事項	授業では提出課題を利用することが多いので、期日までに作成し提出することを求める。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	序論	授業オリエンテーション・作業の定義		
	2	作業と生活(1)	作業の分類・生活と作業		
	3	作業と生活(2)	ライフスタイル分析(1)自分の生活を振り返る		
	4	作業と生活(3)	ライフスタイル分析(2)自分の目標に沿って生活の質を高める。(COPM体験)		
	5	作業と生活(4)	ライフサイクル分析(1)各発達段階における生活の変化・課題の変化		
	6	作業と生活(5)	作業歴 相手の人生についての語りを聴く		
	7	作業と生活(6)	人間作業モデル 意志・習慣化・遂行・環境のサブシステム 作業遂行障害		
	8	作業と生活(7)	ライフサイクル分析(2)社会心理発達理論 作業の変遷		
	9	人間と作業(1)	脳と作業(1)脳の発達と作業の関係		
	10	人間と作業(2)	脳と作業(2)脳の発達と再生 脳のリハビリテーション		
	11	人間と作業(3)	手・からだ・こころと作業		
	12	人間と作業(4)	学習・コミュニケーションと作業		
	13	作業の治療的利用(1)	作業の知・作業のクオリア		
	14	作業の治療的利用(2)	作業の治療的利用・作業の技・技を育む(1)		
15	作業の治療的利用(3)	作業の治療的利用・作業の技・技を育む(2)			

授業科目	基礎作業学実習		担当教員	池田 保	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	23回	時間数 45時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の工程を理解し、道具と材料を知る。 ・自分の体験したことをもとに、包括的作業分析を行う。 ・作業分析を通じて、作業特徴の把握、必要な能力、治療的利用の方法と指導援助方法を検討する。 				
到達目標	包括的作業分析ができる。作業の要素について比較ができる。				
テキスト・参考図書等	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト2 作業学、ひとと作業・作業活動				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物による課題点とその他(作品点)にて評定する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	65			
その他	35				
履修上の留意事項	さまざまな作業体験をしながら、作業道具・作業工程・治療目的などを比較分析していく。提出期限を厳守すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・塗り絵	授業オリエンテーション・作業分析、簡易型分析表の書き方		
	2	レクリエーション(室内ゲーム)	レクリエーションオリエンテーション・ボードゲームの体験(個人/ペアによる対戦・協力)・分析表の作成		
	3	レクリエーション	4年生企画 合同レクの参加(小集団ゲーム体験)		
	4	レクリエーション	4年生企画 合同レクの参加(小集団ゲーム体験)		
	5	作業分析	作業分析とは? 個人・ペア・小集団ゲームの比較		
	6	折り紙	折り紙オリエンテーション・おりがみ体験(構成的作業の体験) 折り図を読む・見本から作成する・工夫をする		
	7	折り紙	おりがみ体験(構成的作業の体験) 折り図を読む・見本から作成する・工夫をする・作業分析表		
	8	ちぎり絵	色紙絵作成(投影的作業の体験)		
	9	ちぎり絵	構成的作業と投影的作業の比較		
	10	ネット手芸	ネット手芸オリエンテーション・ミニカードケースづくり		
	11	ネット手芸	ミニカードケースづくり		
	12	ネット手芸	ミニカードケースづくり		
	13	ネット手芸	ミニカードケースづくり		
	14	ネット手芸	ミニカードケースづくり		
	15	作業分析	作業分析の歴史・包括的作業分析と限定的作業分析、包括的作業分析の記載方法		
	16	七宝焼	七宝焼オリエンテーション ピンバッチ制作		
	17	七宝焼	ピンバッチ制作		
	18	籐細工	籐細工オリエンテーション・コースター作り		
	19	籐細工	丸かご作り		
	20	籐細工	丸かご作り		
21	籐細工	丸かご作り			

	22	籐細工	丸かご作り
	23	振り返り	授業のまとめ・包括的作業分析から限定的作業分析へ

授業科目	作業療法概論		担当教員	目黒 文彦	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	皆さんがこれかならうとしている作業療法士について知ると共に作業療法について学びます。授業を通して、将来、作業療法士になるために必要な基礎的知識の獲得を目指します。				
到達目標	作業療法に必要な基礎的知識を習得する。作業療法の対象分野・対象者、その目的や目指すところを理解し、説明できるようになる。				
テキスト・参考図書等	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	前・後期定期試験		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	将来、作業療法士になる上で土台となる重要な科目です。積極的に参加してください。教員自己紹介や施設見学については提出課題があります。期限内の提出を確実に出来るよう、課題には計画的に取り組むようにしてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	科目の説明、教員・学生自己紹介		
	2	作業療法と私	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	3	作業療法と私	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	4	作業療法と私	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	5	作業療法と私	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	6	作業療法と私	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	7	作業療法と私	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	8	作業療法と私	作業療法学科各教員の作業療法との出会いと現在までの経験から作業療法の分野の広さと考え方を知る。		
	9	作業療法とは何か	作業療法の定義や作業療法の対象、臨床分野など作業療法や作業療法士に関する基本的な事柄を知る。		
	10	作業療法とは何か	作業療法の定義や作業療法の対象、臨床分野など作業療法や作業療法士に関する基本的な事柄を知る。		
	11	障害構造と生活機能分類	ICIDH - 2 と ICF		
	12	標本館見学	札幌医科大学標本館の見学		
	13	チームアプローチ	リハビリテーションを支える関連職種について学ぶ。		
	14	作業療法の歴史	作業療法の始まり、世界・日本における作業療法の歴史を知る。		
	15	作業療法の歴史	作業療法の始まり、世界・日本における作業療法の歴史を知る。		
	16	リハビリテーションがもつ意味	リハビリテーションとリハビリテーションの歴史について知る。		
	17	医療・保健・福祉をささえる仕組みと作業療法の位置づけ	社会保障制度とその中に位置づけられる作業療法に対する理解を深める。		
18	当事者の視点から見たリハビリテーションと、未来のセラピストに望むこと	障がい当事者が体験してきた事、未来のセラピストへの期待を直接聞くことにより当事者本人の視点を持つことの重要性を学ぶ			

19	作業療法の臨床分野	各分野の施設見学に先立って、身体障がい、精神障がい、発達障がいの各分野で展開されている作業療法の特徴を知る。
20	作業療法の臨床分野	各分野の施設見学に先立って、身体障がい、精神障がい、発達障がいの各分野で展開されている作業療法の特徴を知る。
21	作業療法の臨床分野	各分野の施設見学に先立って、身体障がい、精神障がい、発達障がいの各分野で展開されている作業療法の特徴を知る。
22	施設見学	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(身体障害分野、 精神障害分野、 発達障害分野)
23	施設見学	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(身体障害分野、 精神障害分野、 発達障害分野)
24	施設見学	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(身体障害分野、 精神障害分野、 発達障害分野)
25	施設見学	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(身体障害分野、 精神障害分野、 発達障害分野)
26	施設見学	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(身体障害分野、 精神障害分野、 発達障害分野)
27	施設見学	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(身体障害分野、 精神障害分野、 発達障害分野)
28	グループワーク	施設見学を元に各分野の作業療法についての知見をまとめると共に疑問点の解決をはかる
29	グループワーク	施設見学を元に各分野の作業療法についての知見をまとめると共に疑問点の解決をはかる
30	作業療法の理論	作業療法の代表的な理論・モデルの概略を知る。
31		

授業科目	作業療法評価法	担当教員	目黒 文彦		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	作業療法における「評価」の重要性を理解する。				
到達目標	評価技法の基本を習得し、対象者理解の基礎を身につける。				
テキスト・参考図書等	標準作業療法学 作業療法評価学、新・徒手筋力検査法 第10版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	筆記試験と実技試験の得点を合算（筆記試験70%、実技試験30%）して最終成績とする。 筆記試験は、100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。 実技試験についても100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たない場合は再試験を受験し、60点以上で合格とする。 筆記試験・実技試験共に合格に達しない場合は、本試験の得点をもって最終成績とする。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	30				
履修上の留意事項	実技を多く含む科目です。基礎的な項目とはいえ、実技試験も実施されますので、授業後の復習、反復実技練習は必要になります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	評価法概論	オリエンテーション。評価とは何かを理解する		
	2	評価法概論	作業療法評価結果の記録方法、SOAPの使い方を知る		
	3	バイタルサイン	バイタルサインとは何かを理解する		
	4	バイタルサイン	バイタルサインの評価技術を学び、脈拍測定の意味合いを理解する		
	5	バイタルサイン	バイタルサインの評価技術を学び、脈拍測定の実施が可能になる		
	6	バイタルサイン	バイタルサインの評価技術を学び、血圧の実施が可能になる		
	7	バイタルサイン	バイタルサインの評価技術を学び、血圧の実施が可能になる		
	8	バイタルサイン	意識状態の評価基準を理解する		
	9	バイタルサイン	バイタルサインとリスク管理の関連性を理解する		
	10	バイタルサイン	バイタルサインの臨床上の活用事例を学ぶ		
	11	面接・作業面接	面接の種類・接近と挨拶、パーソナルスペースについて理解する		
	12	作業面接	構成的面接練習、面接の導入と情報収集面接、作業を介した面接を理解する。		
	13	作業面接・作業観察	子ども・車椅子患者と面接する場面での注意点と方法を理解する。 観察の種類を理解する。		
	14	作業面接・作業観察	車いす利用者との情報収集面接の流れ（実習前実技試験課題を中心に）		
	15	作業観察	観察の種類 観察における評価の特徴 観察の記録		
	16	作業観察	第一印象の捉え方・まとめ方を理解する。		
	17	関節可動域測定（ROM-T）	関節可動域測定の目的を理解する。		
18	関節可動域測定（ROM-T）上肢	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。			

19	関節可動域測定 (ROM - T) 上肢	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
20	関節可動域測定 (ROM - T) 上肢	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
21	関節可動域測定 (ROM - T) 上肢	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
22	関節可動域測定 (ROM - T) 上肢	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
23	関節可動域測定 (ROM - T) 下肢	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
24	関節可動域測定 (ROM - T) 下肢	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
25	関節可動域測定 (ROM - T) 下肢	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
26	関節可動域測定 (ROM - T) 下肢	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
27	関節可動域測定 (ROM - T) 下肢	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
28	関節可動域測定 (ROM - T) 総まとめ	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
29	筋力	筋力や筋持久力とは何かを知り、姿勢保持や運動に際しての筋力の必要性を理解する 筋の収縮様式と実際の身体運動を関連付けられる
30	筋力	徒手筋力検査の基本的な考え方を理解する。 徒手筋力検査の各段階を説明できる。

授業科目	自然科学		担当教員	近江谷 和彦	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	<p>【生物学】他の科目の参考となるよう、DNAから生態系まで、生物学の基本的な知識を学ぶ。 【物理学】私たちの生活には物理学により説明できる事象が沢山あり、携帯電話をはじめとする物理学を応用した機器も多い。また、介護・医療の現場でも物理学に基づいた考えは欠くことができない。この授業では、物理学の基礎を学び、理解し、それぞれの分野で私たちの生活、介護・医療との関連性を考える。</p>				
到達目標	<p>【生物学】DNAから生態系までの、生物学の基本的な知識について説明できる。 【物理学】数式を理解し、物理量の計算ができるようにする。</p>				
テキスト・参考図書等	<p>系統看護学講座 基礎分野 生物学 第9版 まるわかり！基礎物理 2011年</p>				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験を評価 ・各領域でそれぞれ6割以上を合格とする 		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	<p>前もって教科書を読んで授業を受けること。学んだことをその日の中に思い起こすこと。疑問点が残ったら早めに解決すること。なお、三角関数については予習しておくことが望ましい。講義を聞いて興味を持った分野は、少しでもよいので関連する事柄を自分で調べてみる。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	【生物学】：細胞のつくりとはたらき	細胞の構成要素と、それぞれの担っている役割について説明する。		
	2	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ	「遺伝子」について、そのつくりと、生命体の中で実際に働きを持つようになるまでの道筋をみる。		
	3	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ	「遺伝子」について、そのつくりと、生命体の中で実際に働きを持つようになるまでの道筋をみる。		
	4	生殖と発生	生物が子孫を残す方法と仕組み、および生物の体が形成される過程をみる。		
	5	生命の維持と調節	生命体の様々な系・器官とその役割について説明する。		
	6	刺激の受容と行動	生命体が外界の情報を受け取り、反応する仕組みについて説明する。		
	7	生命の起源と進化	長い時間の中で移り変わる地球環境の中での、生命の進化の歴史をみる。		
	8	【物理学】：物理のルール	物理で使う数字・文字のルール 物理で使う数学		
	9	力学の基本	速度が変わらない運動 途中で速度が変わる運動		
	10	物体の運動と力	力の表し方と力の式の使い方		
	11	圧力のはたらきと物を回転させるエネルギーと運動量	身のまわりの圧力とその影響、物を回転させる力とつり合いの状態、いろいろなエネルギー エネルギーの保存		
	12	気体の運動	熱の基本的な性質 気体が周囲におよぼす力		
	13	波の性質	波の表し方と2種類の波 波ならではの現象		
	14	音と光の現象	音の性質と音程の変化 波としての光の性質		
15	オームの法則	電流と電子の流れ オームの法則			

授業科目	実践コミュニケーション		担当教員	小野 直也	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	医療職におけるコミュニケーションの重要性や医療職に必要とされる、接遇・態度・マナーについてその重要性を理解する。				
到達目標	コミュニケーション手段の種類とその特徴・利用法について理解し、対象者や場面に合わせたコミュニケーションが実践できる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40	提出課題と定期試験の合算で評価する。 定期試験で6割以下の場合には、再試験の対象となる。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
その他	0				
履修上の留意事項	コミュニケーションスキルの問題は必ず誰もがぶつかる壁である。対象者をはじめ他者との関係作りの基本となるものなのでとても重要である。積極的に演習に取り組むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	イントロダクション、対人援助とコミュニケーション	授業の概要と予定、成績評価、指導と援助		
	2	対人援助とコミュニケーション、コミュニケーションの分類	指導と援助、コミュニケーションの語源、分類		
	3	コミュニケーションの分類、コミュニケーション効果	コミュニケーション効果、メッセージ、挨拶、敬語		
	4	交流分析	私とは何者か、三つの自我、自我状態の確認、交流パターン分析		
	5	交流分析	他者からみたエゴグラム、エゴグラム分析		
	6	他者からみた自分	他者から見た自分（フィードバック、ジョハリの窓）、Positive Feedback（ほめる、ほめられる）		
	7	指示・助言・支持	指示（ブラインドウォーク）		
	8	指示・助言・支持	助言（助言カード）		
	9	指示・助言・支持	支持（支持トレーニング）		
	10	傾聴と共感	アクティブリスニング、受容		
	11	傾聴と共感	共感		
	12	コミュニケーション技法	促し、繰り返し、明確化、要約、共感		
	13	コミュニケーション技法	共感、開かれた質問、解釈		
	14	コミュニケーション技法、接遇	保証、沈黙、対決、接遇の意味と必要性、尊敬語、謙讓語、丁寧語、実習先への電話がけ、身だしなみマナー		
15	実践コミュニケーション	これまで学んだコミュニケーションスキルの実践			

授業科目	情報科学		担当教員	赤尾 みどり	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な、情報リテラシーと Microsoft Word、Excel、PowerPoint の操作方法を身につけることを目的とする。また、それらを利用して、パソコンを有効活用するための知識と操作法を習得する。				
到達目標	Word を使ってレポートが作成できる。 Excel を使って表や図が作成できる。 PowerPoint を使ってスライドが作成できる。 情報化社会でのモラルや責任について、自己の考え方を説明できる。				
テキスト・参考図書等	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016 Windows 10 対応				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	・各試験の平均点 50% ・提出物 50%		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
その他	0				
履修上の留意事項	授業は PC 室で行うので時間までに着席していること。 説明と実習（実習がメイン） 積み重ねの演習が多いので休まずに出席すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	情報処理の基礎（序章、第1章）	Windows とインターネットの基礎（SNS の安全な利用、著作権、情報セキュア、校内ネットワークの使い方）、文字入力とタイピングの基礎		
	2	文書化の基本（第2章1～2）	印刷様式、文字装飾		
	3	文書化の基本（第2章3～4）	作表1、画像・図形の利用1		
	4	文書化の基本（第2章5～6）	作表2、画像・図形の利用2		
	5	文書化の基本	練習問題、レポート作成		
	6	表計算ソフトの活用（第3章1～3）	データ入力とワークシートの編集		
	7	表計算ソフトの活用（第3章3～4）	四則演算と関数の基礎、作表と編集		
	8	表計算ソフトの活用（第3章6）	グラフ表現の要点とグラフ作成		
	9	表計算ソフトの活用（第3章5）	条件判定と順位付け		
	10	表計算ソフトの活用	練習問題、ファイル管理		
	11	プレゼンテーションソフトの活用（第4章1～2）	スライド編集、文字装飾と図形の活用		
	12	プレゼンテーションソフトの活用（第4章3～4）	特殊効果（グラフ、スマートアートの活用、アニメーション効果）		
	13	プレゼンテーションソフトの活用（第4章5～6）	表・ワードアートの挿入、テーマの設定		
	14	プレゼンテーションソフトの活用（第4章7）	資料作成とプレゼンテーションの基礎知識		
15	プレゼンテーションソフトの活用	総合演習、プレゼンテーション			

授業科目	心理学	担当教員	久原 奈緒子		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	心理学はどのような学問か、歴史と研究方法、また、環境へ適用していく上で心はどのように役立っているのか、心の仕組みはどのようになっているのかについて、幅広い心理学の中から代表的なものについて学んでいきます。				
到達目標	心理学の基礎知識、心理学の分類や歴史、脳の働きと心の関係について理解した上で、感覚・知覚・記憶・思考・学習・言語・発達・性格を取り上げ、様々な分野への心理学の応用、人間一般の行動の法則性を修得することを目的とします。				
テキスト・参考図書等	教科書 社会福祉士シリーズ2 心理学理論と心理的支援 (ISBN978 - 4 - 335 - 61072 - 1)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験および提出物にて評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	20			
その他	0				
履修上の留意事項	必ずしも教科書に従って講義を進めるとは限りませんが、事前に一読下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	心理学とは？	心理学の発祥、心理学の領域、他の学問との関連		
	2	性格心理学	類型論、特性論、構造論、局所論		
	3	性格心理学	性格の形成要因		
	4	性格心理学	心理検査、交流分析		
	5	心の病理と健康	心の健康と発達（フロイト、ユング、ピアジェ）		
	6	心の病理と健康	防衛機制、愛着		
	7	知覚心理学	感情と情動、表情と情動、弾力性感覚器官、知覚特性		
	8	知覚心理学	人間のものの見方、見え方、感じ方		
	9	発達臨床心理学	胎児期、乳児期の発達の特徴		
	10	発達臨床心理学	児童期、学童期の発達の特徴		
	11	発達臨床心理学	思春期、青年期の発達の特徴		
	12	発達臨床心理学	中年期、老年期の発達の特徴		
	13	学習心理学	レスポナント条件付け、オペラント条件付け、動機づけ、		
	14	学習心理学	学習無力感、欲求階層説、IQ		
15	グループワークとまとめ	KJ法			

授業科目	人間発達学	担当教員	高橋 義信		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	人間の身体や運動、認知がどのように発達するのか理解する。				
到達目標	新生児期から老年期までの各ライフステージの特徴とどのような問題に遭遇するかを理解し、問題を抱えた個人の援助の基礎を会得する。				
テキスト・参考図書等	リハビリテーション医学講座 第2巻 人間発達学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	人間の身体や運動、認知がどのように発達するのかについて理解することは、人間理解の基本となり、対人援助職には必要不可欠な知識となる。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	人間発達とは	人間発達観の変遷と発達研究法		
	2	発達の一般原理	発達の方向性、臨界期、遺伝率		
	3	身体発達	身体各部の発達の特徴		
	4	身体発達	身体発達の評価法、身体発達に関与する因子		
	5	運動機能の発達	新生児、乳児期の運動発達の特徴		
	6	運動機能の発達	運動機能の発達に影響を及ぼす因子		
	7	感覚の発達	新生児の感覚能力		
	8	知覚の発達	パターン知覚、奥行き知覚、色の知覚の発達		
	9	言語の発達	二歳までの言語発達の道筋、言語障害の原因		
	10	知能の発達	知能検査、知能指数、知能に影響を与える因子		
	11	青年期	青年期の身体的変化		
	12	青年期	青年期の心理的变化と諸問題		
	13	成人期	成人期の身体的変化と成人期の諸問題		
	14	老年期	老化とは、老化に影響を与える因子、老年期の諸問題		
15	まとめ				

授業科目	人財育成概説	担当教員	柿崎 貴浩		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態	講義	授業回数	8回	時間数	15時間
授業目的	・本校学生としての基本的な心構えを知る。・医療人に必要とされる資質とは何かを諸先輩から話を聞き知る。				
到達目標	・社会人として必要な常識や心構え、人間関係を築くための意志伝達スキルを理解する。				
テキスト・参考図書等	配布資料				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート課題により評価する。		
	レポート	100			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	・卒後のイメージを具体化できるよう主体的な姿勢で受講すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション いま社会（病院・施設）が求めているもの	本校の教育理念、豊かな人間性について		
	2	どのような大人になりたいか			
	3	時代の変化と社会が求めている人財			
	4	キャリアデザインを描く			
	5	人財育成概説			
	6	メディカルフィットネス			
	7	医療現場が求める人財とは			
	8	社会人・医療人として大切にすべきこと			

授業科目	生理学	担当教員	一瀬 信敏		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45回	時間数	90時間
授業目的	・人間が生きていくための仕組み「生理学」は、リハビリを学ぶための基礎として極めて重要である。「この仕組みはどのようにすれば回復させることが出来るのだろうか」と考えながら、しっかり学ぶことを目的とする。				
到達目標	・生体におけるホメオスタシスの基本概念および呼吸器・循環器・消化器・生殖器・代謝・内分泌の機能を理解する。 ・神経系は電気信号を用いて情報を伝える。このしくみを学び生体の内外の感覚情報の解析と生体が外界に働きかける運動や行動を理解する。				
テキスト・参考図書等	生理学（標準理学療法作業療法学 専門基礎分野）第6版 これならわかる要点生理学 参考書籍：解剖生理学、目で見るからだのメカニズム、生理学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	100	筆記試験は前期分（中間試験、前期試験）と後期試験それぞれに合格すること。 ・前期：中間試験 + 前期試験 = 120点以上合格(120点未満再試験) ・後期：後期試験 = 60点以上合格(60点未満再試験) ・再試験は60点以上で合格となる		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	・1回ごとの積み重ねが大事であるので必ず出席して集中して講義を聞くこと。 ・単なる丸暗記では、臨床においては通用しない。「仕組み」「機序」「作用」を理解するよう心掛けること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	生命現象と人体	オリエンテーション、身体の階層性	生命現象	水 ホメオスタシス
	2	生命現象と人体	オリエンテーション、身体の階層性	生命現象	水 ホメオスタシス
	3	生命現象と人体	オリエンテーション、身体の階層性	生命現象	水 ホメオスタシス
	4	細胞の構造と機能			
	5	細胞の構造と機能			
	6	細胞の構造と機能	細胞 体液	細胞の透過性	静止電位 活動電位
	7	血液	血液の機能と成分、血球、血漿	生体防御、免疫	骨と骨髄
	8	血液	血液の機能と成分、血球、血漿	生体防御、免疫	骨と骨髄
	9	血液	血液の機能と成分、血球、血漿	生体防御、免疫	骨と骨髄
	10	血液	血液の機能と成分、血球、血漿	生体防御、免疫	骨と骨髄
	11	心臓と循環	循環の仕組み、心臓・心機能の調節	心電図、心音、心周期	
	12	心臓と循環	循環の仕組み、心臓・心機能の調節	心電図、心音、心周期	
	13	心臓と循環	循環の仕組み、心臓・心機能の調節	心電図、心音、心周期	
	14	呼吸とガスの運搬	呼吸器、呼吸運動、肺気量	呼吸ガスと血流ガス	呼吸の調節
	15	呼吸とガスの運搬	呼吸器、呼吸運動、肺気量	呼吸ガスと血流ガス	呼吸の調節
	16	消化と吸収	消化器の機能、消化機能の調節		
	17	消化と吸収	消化器の機能、消化機能の調節		
18	尿の生成と排泄	排泄、腎臓、尿の生成	腎機能の調節、排尿		

19	尿の生成と排泄	排泄、腎臓、尿の生成 腎機能の調節、排尿
20	内分泌	ホルモンとは、視床下部 - 下垂体系、甲状腺 上皮小体、膵臓等
21	内分泌	ホルモンとは、視床下部 - 下垂体系、甲状腺 上皮小体、膵臓等
22	性と生殖	生殖器、受精と妊娠
23	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能 記憶、脳波
24	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能 記憶、脳波
25	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能 記憶、脳波
26	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能 記憶、脳波
27	代謝と体温	エネルギー代謝、栄養素の代謝 体温、発汗
28	代謝と体温	エネルギー代謝、栄養素の代謝 体温、発汗
29	酸塩基平衡	体液の pH、血液の緩衝系、酸 - 塩基平衡の異常
30	酸塩基平衡	体液の pH、血液の緩衝系、酸 - 塩基平衡の異常
31	神経 I	神経入門・興奮の成り立ち
32	神経 II	興奮の伝導と伝達
33	神経系	シナプスと神経系
34	末梢神経系	脳神経、脊髄神経、自律神経の機能
35	中枢神経系	脊髄の機能
36	中枢神経系 II	脳幹各部位の機能
37	中枢神経系 III	随意運動の調節
38	中枢神経系 IV	大脳皮質の機能
39	感覚 I	感覚入門・受容器の性質
40	感覚 II	感覚各論
41	筋の収縮	筋肉入門・筋収縮の生理学
42	筋の収縮	骨格筋の張力
43	筋の収縮	骨格筋収縮のエネルギー
44	筋の収縮	固有感覚と筋電図
45	筋の収縮	心筋と平滑筋

授業科目	生理学実習		担当教員	武田 祐貴	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23回	時間数 45時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・生理学の講義で得られた知識を、実習を通してより深く理解する。 ・実習器具や実験装置の取り扱いを知るとともに、できる限り詳細な記録、鋭察を心掛け、より深い分析力、考察力を身に付ける。 ・実験の一連の過程（目的、方法、結果、考察）について、標準的な書式に則って記載する能力を養う。 				
到達目標	生理学の知識を基に、実習を行い、その結果を分析・考察することができる。 実習で得られた結果を書式に則って適切に記録・記載することができる。				
テキスト・参考図書等	生理学（標準理学療法作業療法学 専門基礎分野）第4版 これならわかる要点生理学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	各実習の課題点（20%）とレポート評価点（80%）により評価。		
	レポート	80			
	小テスト	0			
	提出物	20			
その他	0				
履修上の留意事項	レポートでは「実習内容を正確に詳細に記述する」、「文献の丸写しではなく、自らの考えを交えて書く」ことを心掛けること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方（担当：小熊、武田）		
	2	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方（担当：小熊、武田）		
	3	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方（担当：小熊、武田）		
	4	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方（担当：小熊、武田）		
	5	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方（担当：小熊、武田）		
	6	実習	筋力測定		
	7	実習	筋力測定		
	8	実習	皮膚感覚		
	9	実習	皮膚感覚		
	10	実習	皮膚感覚		
	11	実習	皮膚感覚		
	12	実習	心電図		
	13	実習	心電図		
	14	実習	心電図		
	15	実習	心電図		
	16	実習	筋電図		
17	実習	筋電図			

	18	実習	筋電図
	19	実習	筋電図
	20	実習	呼吸機能
	21	実習	呼吸機能
	22	実習	呼吸機能
	23	実習	呼吸機能

授業科目	精神障害作業治療学	担当教員	小熊 真喜子		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	精神科作業療法の対象者について知る。 精神障がい者に対する作業療法の意義と役割を知る。 精神障がい者や精神科医療についての歴史の概要をつかむ。				
到達目標	精神障害者に関する歴史的背景と現状の課題を理解する。				
テキスト・参考図書等	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法学、 標準理学療法学作業療法学 精神医学 第4版 増補版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	81	後期定期試験(81%)、提出物(授業のまとめ)(15%)、単元のまとめ(4%)		
	レポート	0			
	小テスト				
	提出物	15			
その他	4				
履修上の留意事項	各授業で配布する提出課題である「授業のまとめ」は授業終了時に提出すること。予習・復習に活用できる。 単元のまとめは、前半・後半のポイントについての設問を、授業資料や教科書を使って取り組んだものを提出する。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業予定(シラバス)と講義内容のオリエンテーション、精神障害者に対するイメージ		
	2	精神科医療サービスの基本的流れ	受診・外来治療と入院治療・地域での支援		
	3	精神医療保健福祉の歴史(1)海外	精神障がい者とその支援者・様々な治療の歴史		
	4	精神医療保健福祉の歴史(2)日本	日本における精神医療保健福祉の歴史 法律の変遷		
	5	精神症状と精神疾患	精神症状・障害の理解(陽性症状、陰性症状) 代表的な精神疾患		
	6	まとめ(1)精神科作業療法概論(1)	単元のまとめ 精神科分野の作業療法士の業務・1日の流れ		
	7	精神科サービスの種類と特徴(1)医療・保健分野	各種医療・保健サービスと作業療法士の役割		
	8	精神科サービスの種類と特徴(2)福祉・職業分野	各種福祉・職業サービスと作業療法士の役割		
	9	精神科作業療法概論(2)	回復過程に応じた援助(統合失調症を例に)		
	10	精神科作業療法概論(3)	精神科作業療法の流れ(事例を通じて)		
	11	精神科作業療法概論(4)	精神科作業療法の流れ(グループワーク)		
	12	精神科作業療法の治療構造・構成要素(1)	治療的自己の応用~作業の利用		
	13	精神科作業療法の治療構造・構成要素(2)	集団・場所と場・時間と頻度の利用		
	14	精神科治療論・モデル・技法(1)	精神分析理論~発達理論		
15	精神科治療論・モデル・技法(2)・まとめ(2)	集団発達理論~環境調整的アプローチ・単元のまとめ			

授業科目	哲学		担当教員	尾形 敬次	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	8回	時間数 15時間
授業目的	<p>医療者は医療技術者である一方、医療技術の開発者、つまり医学の研究者でもある。無論、この研究は科学一般のパラダイムに従って、つまり科学研究の前提となる態度と方法に従って行われなければならない。また、一般に科学理論に従うことが、誤った治療方法に陥らないための条件でもある。見方を変えると、これに従わなかったため治療成果が挙げられない場合、医療者に弁明の余地はなく、医療者個人が責任を取らなければならない。上のような背景事情を前提にしつつ、講義という形態の中に随時演習を取り入れ、それによって学生が科学の理解を深め、その思考態度を確立するのがこの講義の目的・目標である。</p>				
到達目標	<p>科学的思考態度の習得は中等教育の目標でもあり、そこにおける学生の習熟度に応じて講義の中での演習を行う。したがって授業は随時提出される演習課題への学生の解答をフィードバックさせて行われる。この講義は科学哲学の講義であり、学生が科学者としての態度を身につけることを目標とする。つまり、知識の蓄積ではなく、知識を作り出すための態度の形成が目標である。</p>				
テキスト・参考図書等	特に指定なし				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	授業時間内に行う問いの解答の成績と、学期末の筆記試験を総合して評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
その他	0				
履修上の留意事項	<p>知識の集積ではなく、むしろ態度の習得が目標なので、習得すべき個々の学習内容はあらかじめシラバスで提示できるが、時間ごとの講義内容を前もって明示することはできない。下のコマ数は目安に過ぎず、講義はおおむね以下の順序で行われるが、必要に応じて随時、テーマを遡ることがある。科学活動は職業上、自分たちに直接関与してくる。その自覚をもって授業に臨んでほしい。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	科学とは何か	西洋文化としての科学		
	2	科学と非科学	哲学と科学、宗教と科学、科学とエセ科学		
	3	近代科学の形成	科学革命と近代科学のパラダイム		
	4	近代科学の形成	科学革命と近代科学のパラダイム		
	5	近代科学のパラダイムと相容れない科学	19世紀後半以降の科学の成果。無意識、進化、量子		
	6	科学的探究の方法	実験と観察、帰納と演繹、仮説演繹法と反証可能性		
	7	科学的探究の限界	神経ダーウィニズムとセンス・データの限界		
	8	科学の新たなパラダイム	自己組織化、オートポイエーシス等の仮説		

授業科目	日常生活活動	担当教員	和田 英峰		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	作業療法にとって大きな柱である日常生活活動とは何かを学ぶ。また、基本動作の介助方法を習得するとともに、障がい体験を通して障がいを持つ方の日常生活を体験し、評価・介入方法を学ぶ。				
到達目標	基本動作の介助方法を習得する。障がい者の日常生活の評価・介入を理解する。				
テキスト・参考図書等	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学（ADL）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	筆記試験において、100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	作業療法は対象者の日常生活に多く関わる職業です。この科目は日常生活の基礎を学びますので、積極的に学習してください。実技の際は動きやすい服装で授業に臨んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	人にとっての日常生活とは何か。ADLとOTの関係。		
	2	ADL・IADLなど	広義・狭義のADL IADLについて知る。		
	3	できるADL・しているADL	できるADL・しているADLを理解する。		
	4	QOL	QOLについて知る。		
	5	ADL評価	評価の目的と具体的な評価方法について理解する。		
	6	基本動作と姿勢	ADLの基盤となる基本的な姿勢や動作を知る。		
	7	基本動作と姿勢	人の発達と基本動作について理解する。		
	8	介助方法・基本動作	寝返り動作の介助方法や指導方法について実技を交え体験する。		
	9	介助方法・基本動作	起き上がり動作の介助方法や指導方法について実技を交え体験する。		
	10	介助方法・基本動作	立ち上がり動作の介助方法や指導方法について実技を交え体験する。		
	11	介助方法・基本動作	移乗動作の介助方法や指導方法について実技を交え体験する。		
	12	介助方法・基本動作	車いすや杖、補装具について学ぶ。		
	13	ADLへの介入手段	ADL遂行能力を向上させるための考え方と方法の概略を知る（治療的アプローチと代償的アプローチ）。		
	14	ADLへの介入手段	ADL遂行能力向上に用いる自助具、福祉用具を知る。		
15	まとめ	この科目を振り返り、重要事項の再確認を行う。			

授業科目	発達障害作業治療学		担当教員	青戸 恵利伽	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	発達障害分野作業療法の対象・役割・援助方法について理解できる。 正常発達の大まかな流れを捉えることができる。				
到達目標	発達障害作業療法の概要を説明できる。 正常発達理論を列挙できる。 0ヶ月～12か月までの運動発達を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 発達過程作業療法学第3版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	筆記試験において、100点満点中60点以上を合格。 本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の 留意事項	人間発達学の内容を復習しながら取り組むこと。				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・総論 (1)	授業オリエンテーション 子どもと保護者を支援する		
	2	総論(2)	発達障害の種類と概要		
	3	総論(3)	発達を捉える視点・正常発達を学ぶ意義		
	4	原始反射と姿勢反射(1)	原始反射の種類(脊髄～延髄レベル)		
	5	原始反射と姿勢反射(2)	姿勢反射の種類(中脳～皮質レベル)		
	6	粗大運動発達(1)	0～12か月の発達の概要		
	7	粗大運動発達(2)	背臥位の発達		
	8	粗大運動発達(3)	腹臥位の発達		
	9	粗大運動発達(4)	座位の発達		
	10	粗大運動発達(5)	立位の発達		
	11	乳・幼児期の言語・認知機能の発達	乳幼児期の発語や言語理解と認知機能の発達		
	12	乳・幼児期の遊び・社会性の発達	乳・幼児期の遊びや基本的習慣・対人関係の発達		
	13	乳・幼児期の運動発達と発達理論	乳・幼児期の微細(手)運動の発達、主な発達理論(ゲセル・ピアジェ・エリクソン・マーズロー)		
	14	発達理論	発達検査(遠城寺式乳幼児分析的発達検査、日本版デンバー式発達スクリーニング検査) 正常発達のまとめ		
15	まとめ	正常発達や発達領域における作業療法について振り返り、重要項目の再確認を行う。			

授業科目	表現論		担当教員	吉田 智子	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	<p>学校における様々な課題の取り組むためのポイントについて知る。 論理的な文章を書く基礎を身につける。 相手に伝えるためのプレゼンテーション技法を学ぶ。 実習にむけた様々な課題の取り組み方法を知る。</p>				
到達目標	<p>学校生活に必要な、予習復習を含めた効率的な授業受講の方法、テスト勉強の方法を実施できる。 目標を到達目標と行動目標に分けて作成し、振り返り・修正できる。 レポートや感想文を作成するための基本的な表現技法を習得し、論理的文章が作成できる。 プレゼンテーションに必要な基本的事項について表現技法を習得する。 臨床実習に向け、実習日誌・メモ・お礼状などの作成ポイントを列挙できる。</p>				
テキスト・参考図書等	<p>教科書は使用しません。 知へのステップ 第5版</p>				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	<p>前期は小テストと提出物の提出状況と内容を合算して評価する。 後期は提出物の提出状況と内容のみで評価する。 前期・後期の総合点をもって評定を決定する。</p>		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	80			
その他	0				
履修上の留意事項	<p>講義 課題 振り返りという、体験型の授業となる。書く力、伝える力を高めるため、一つ一つの課題をしっかりと取り組むこと。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、目標設定とスケジュール管理、効率的な学習	<p>シラバスの確認方法とその内容について。 専門学校生として主体的に学ぶための目標の立て方、スケジュール管理について学ぶ。 効率的な学習のための予習・授業の受け方・復習の方法を確認する。</p>		
	2	復習・テスト勉強の方法、論理的文章トレーニング（短文作成、基本読解）	<p>前回の授業の復習を通して、復習方法やテスト勉強にむけた勉強方法を確認する ルールに沿って短文を作成する、語彙・文法を確認する文章を読んで、内容を正しく読み取る</p>		
	3	目標とスケジュールの見直し、論理トレーニング（指示・接続読解、伝わりやすい説明の順番）	<p>1回目で立てた目標やスケジュールを見直し修正する。 指示語に対応する内容を捕まえる。言葉を適切に繋ぎ合わせる。 相手が理解しやすい説明方法・手順を学ぶ。</p>		
	4	テキストの選び方・読み方、感想文の書き方、論理トレーニング（図表読解）	<p>テキストを選ぶときのポイントを確認する。 テキストの読み方の種類を知り、体験する。 感想文の書き方を理解し、授業の感想文を作成する。 図表を正しく理解する。結果を正しく文章化する。</p>		
	5	要約。論理トレーニング（論理読解）	<p>複数のテキストを比較読みし、文章を要約する方法を学ぶ。 文章の論理を理解し読み取る。</p>		
	6	意見文	<p>事実、意見、感想の違いについて。 意見文の構成を学ぶ。 事実に対して理由を述べ、意見文を作成する。</p>		
	7	わかりやすい発表（1）	プレゼンテーションの方法、スライドの作成方法		
	8	わかりやすい発表（2）	スライドの作成		
	9	わかりやすい発表（3）	プレゼンテーションを実施する		
	10	実習直前講座（1） お礼状	臨床実習の目的と学習の流れについて理解する。お礼状の目的、書き方や内容について学ぶ。		
	11	実習直前講座（2） メモ	メモの取り方や項目について学ぶ。		
12	実習直前講座（3） 観察場面の記録	観察場面記録の書き方について学ぶ。			

13	実習直前講座(4)実習日誌	実習日誌の書き方について学ぶ。
14	実習直前講座(5) 学生紹介書	学生紹介書の目的、書き方や内容について学ぶ。
15	実習直前講座(6)口頭報告	書き言葉と話し言葉、挨拶の仕方や敬語の使い方について学ぶ。

授業科目	病理学概論		担当教員	安彦 善裕	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	病理学は、病気の成り立ちを探究する学問であり、医療従事者にとって不可欠な学問である。生理学などで学習した正常な細胞、組織、器官の形態が病気によってどのように変化するか、または、正常な生体機能が障害された場合、どのような病態に進展するかを学習する。				
到達目標	1.病理学とは何かについて、病理診断の意義について説明できる。 2.各疾患の病因、病態について説明できる。				
テキスト・参考図書等	教科書：医療系学生のための病理学 第5版（講談社） 参考書：病気の地図帳（講談社）、遺伝子の地図帳（西村書店）、ルービン「カラー 基本病理学」（訳本）（西村書店）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験で60%未満の者には再試験を行う。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物				
その他	0				
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 指定した教科書を事前に読んでおくこと。 病理学を学び、理解するには解剖学および生理学の知識が必須である。病因・病態を理解しやすくするために、解剖学および生理学について復習し、整理・理解しておくこと。 				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	病気と病理学	病理学とは何か、病理診断の意義、治療時における病理学の必要性、病気の発症		
	2	細胞の異常 - 病気の本態	細胞の構造と細胞障害、正常細胞の新陳代謝、再生と修復、ヒトの体の多層構造		
	3	循環障害	循環器系の働き、循環障害、循環障害によって発症する主な疾患と病態		
	4	代謝異常	代謝とは何か、代謝異常、糖代謝と糖代謝異常、脂質代謝と脂質代謝異常		
	5	代謝異常	核酸代謝と核酸代謝異常、タンパク代謝とタンパク代謝異常、カルシウム代謝とカルシウム代謝異常、代謝障害によって発症する主な疾患		
	6	先天異常	遺伝とは何か、先天異常とは、遺伝要因、環境要因		
	7	老化	老化とは何か、細胞の老化と個体の老化、老化に伴う各臓器の変化、老化により発生する疾患		
	8	炎症	炎症の正体、炎症とはどのように起こるのか		
	9	炎症	炎症の分類		
	10	炎症	炎症の全身反応		
	11	免疫と免疫異常	免疫機構、アレルギー、自己免疫疾患		
	12	免疫と免疫異常	免疫不全症、移植免疫、免疫および免疫異常によって発症する主な疾患		
	13	腫瘍	癌とは何か、腫瘍の分類、癌の特性		
	14	腫瘍	腫瘍マーカーと癌の診断、癌の治療		
15	統括	これまでの講義内容の統括			

授業科目	臨床見学実習	担当教員	青戸 恵利伽		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23回	時間数	45時間
授業目的	臨床実習における一連の作業療法を見学・観察し、作業療法及び作業療法士を果たす役割を学ぶ。 作業療法士としての心構え、医療専門職としての自覚を形成する。				
到達目標	作業療法部門、作業療法士の役割、関連職種との役割・業務、施設の機構及び業務について理解する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	臨床実習指導者の評価と作業療法学科教員の評価を合わせて総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	100				
履修上の留意事項	実際の作業療法士の業務を見学し、今後の学習へのモチベーションへとつなげるとともに、実習を通して自己の学習課題を明確にしてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	【1～23回】 1. 臨床実習	各実習施設に赴き実習指導者の監視下・指示のもと、臨床場面の見学、対象者とのコミュニケーション等を通して学ぶ。		

授業科目	リハビリテーション総論	担当教員	森泉 茂宏		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	リハビリテーション医学の概念と各障害に対するリハビリテーションおよび疾患別のリハビリテーションについて学ぶ。				
到達目標	包括的なリハビリテーション領域における作業療法士としての役割を理解する。				
テキスト・参考図書等	最新リハビリテーション医学 第2版 リハビリテーション総論				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	リハビリテーション領域全体の中での理学療法、作業療法、言語聴覚療法の位置づけと役割を学びます。また、障害者の自立支援や就労支援における現状と課題、理学療法、作業療法の役割について学びます。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	リハビリテーションとは	リハビリテーションの定義と歴史、リハビリテーションの起源から地域包括ケアへ		
	2	障害の病態生理と評価	障害の分類と評価		
	3	チーム医療	リハビリテーション医療の特性		
	4	リハビリテーション治療	リハビリテーション評価と方法		
	5	理学療法と作業療法	各役割と特徴		
	6	疾患と機能障害	脳血管障害		
	7	疾患と機能障害	運動器疾患		
	8	疾患と機能障害	変性疾患、神経・筋疾患		
	9	保健・医療・福祉の連携	リハビリテーション医療と地域包括ケア 障害者の自立支援と就労支援（障害者総合支援法と職業リハビリテーション）		
	10	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学の成り立ちと現状		
	11	障害者心理と障害受容	障害の受容と障害への適応		
	12	身体障がい当事者から見たリハビリテーション	サービスの受け手である障がい当事者本人にとってのリハビリテーションの意味		
	13	リハビリテーションと理学療法	リハビリテーション医療における理学療法		
	14	リハビリテーションと作業療法	リハビリテーション医療における作業療法		
	15	リハビリテーションと言語聴覚療法	リハビリテーション医療における言語聴覚療法		
	16				

